

# 旧制松江高で14年間教べん

## カルシュ博士と 学生の交流小説に

戦前に旧制松江高校(現島根大)で、十四年間教べんをとったドイツ人のフリーツ・カルシュ博士(一八九三―一九七二)の功績を紹介しようと、若松秀俊・東京医科大学大学院教授が、博士の生涯や松江での生活、学生との交流などを描いた小説「湖畔の夕映え〜カルシュ博士と松江」を出版した。

### 「松江での功績知って」

哲学者だった博士は一九三五年、ドイツ語の講師として同校へ赴任。教え子には「長崎の鐘」で知られる永井隆氏をはじめ、国会議員や弁護士ら各異で活躍した著名人も多い。

若松教授は九九年に訪独した際、偶然、次女のフリーデルンさんと出会い、博士の存在を知った。その後、フリーデルンさんと米国に住む長女のメヒテルトさんから資料を集め、教え子たちから話を聞くうちに、博士が日本や松江を愛し、学生と心温まる交流をして

### 大出版 東京医科歯科 若松教授が

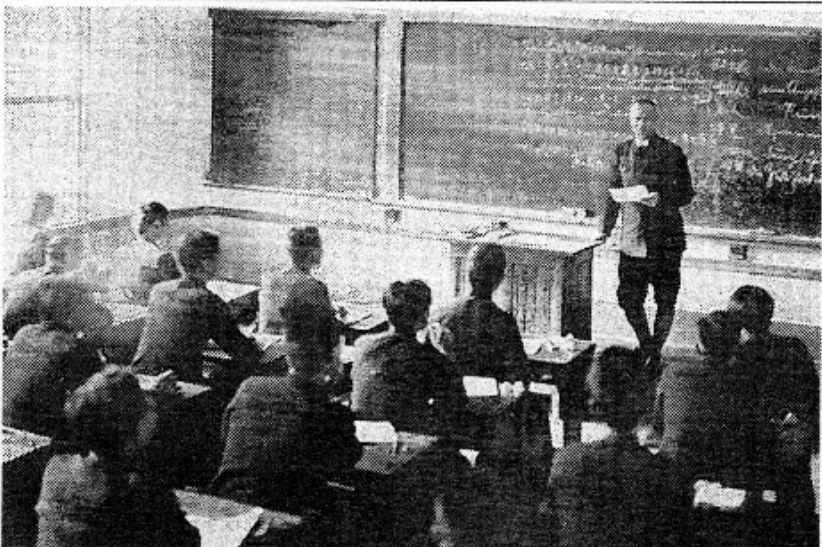
いたことが分かった。

しかし、松江では忘れられた存在で、教え子も八十一歳と高齢。若松教授は二年余りで松江を去ったフカディオ・ハーンよりも地元に残した功績は大きい。こんな人が忘れられてしまっただけではない」と、執筆を思い立った。

小説は、少年時代からじくなるまでを伝記風に描写。博士がハーンの世界を読んで日本に興味を持ったことや、学生や近所の人たちとのエピソード、六道湖や大山を何度も訪れていたこと、戦後に松江を再訪した様子などを描いた。読んだ教え子からは「カルシュ先生の人柄がよく表れている」と評価してもらったという。

取材を通して博士が松江周辺の写真や絵を数多く残していることも判明。若松教授はこうした資料の保存、公開を通して博士を顕彰したいと考えており、記念館建設の夢も抱いている。四六判、二百二十七頁で一冊千二百円。

若松教授は「カルシュ先生の魂が乗り移ったかのように一気に書き上げることができた。多くの人に読んでもらって人柄の素晴らしさ、残した功績の偉大さをわかってもらえれば」と話している。



14年間教べんをとった旧制松江高校での授業風景



カルシュ博士の生涯を描いた小説